

めぐみイエス・キリスト教会

2019年11月10日(日)第二主日礼拝
週報「通算第480号」



2019年標題聖句

第Ⅱペテロ1章10節

《ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまりくことなど決してありません。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2019年11月10日 第二主日礼拝
第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時
司会 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん
◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌428「キリストにはかえられません」p. 690

【交読文】 No.45 詩篇第146篇 p. 915

【賛美Ⅱ】 新聖歌252「安けさは川のごとく」 p. 390

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.9 「ひとつの心」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書20章16節～18節(新約p. 204下段)

【祈 禱】

【説 教】 《父のもとに上るとは?》 鈴木 竜実 牧師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ヨハネの福音書20章16節～18節(新約p. 204))

20:16 イエスは彼女に言われた。「マリヤ。」彼女は振り向いて、ヘブル語で、「ラボニ(すなわち、先生)。」とイエスに言った。

20:17 イエスは彼女に言われた。「私にすがりついてはいけません。私はまだ父のもとに上っていないからです。私の兄弟たちのところに行つて、彼らに『私は、私の父またあなたがたの父、私の神またあなたがたの神のもとに上る。』と告げなさい。」

20:18 マグダラのマリヤは、行つて、「私は主にお目にかかりました。」と言ひ、また、主が彼女にこれらのことを話されたと弟子たちに告げた。

●ポイント1.主イエス様「マリヤ」、マグダラのマリヤ「ラボニ」とは？

※ヨハネの福音書10章1節～4節「牧者と羊」(新約p.180下段左側)

10:1 「まことに、まことに、あなたがたに告げます。羊の囲いに門からはいらないうで、ほかの所を乗り越えて来る者は、盗人で強盗です。

10:2 しかし、門からはいる者は、その羊の牧者です。

10:3 門番は彼のために開き、羊はその声を聞き分けます。彼は自分の羊をその名で呼んで連れ出します。

10:4 彼は、自分の羊をみな引き出すと、その先頭に立って行きます。すると羊は、彼の声を知っているのうで、彼について行きます。」

●ポイント2. 主イエス様の「私にすがりついてはいけません」とは？

- 1.十一弟子の所に行つて、主イエス様の復活の喜びを報告する為
- 2.目に見える主イエス様に固執することなく、聖霊様との関わり
- 3.まことの大祭司として、天にある本物の幕屋の至聖所にはいる為

※ヘブル人の手紙9章11節～12節「ご自分の血によつて」(新約p.398)

9:11 しかしキリストは、すでに成就したすばらしい事からの大祭司として来られ、手で造つた物でない、言い替へれば、この造られた物とは違つた、さらに偉大な、さらに完全な幕屋を通り、

9:12 また、やぎと子牛との血によつてではなく、ご自分の血によつて、ただ一度、まことの聖所には入り、永遠の贖いを成し遂げられたのうです。

●ポイント3.『私は、私の父またあなたがたの父～神のもとに上る』とは？

※ヨハネの福音書6章60節～62節「弟子たちへの主の言葉」(新約p.171)

6:60 そこで、弟子たちのうちの多くの者が、これを聞いて言つた。「これはひどい言葉だ。そんなことをだれが聞いておられようか。」

6:61 しかし、イエスは、弟子たちがこうつぶやいているのを、知つておられ、彼らに言われた。「このことであなうがたはつまずくのか。

6:62 それでは、もし人の子がもといた所に上るのを見たら、どうなるのか。」

※ローマ人への手紙8章14節～17節「神の子ども」(新約p.276上段左側)

◎先週のメッセージの概要【マグダラのマリヤの場合】

《今日は、マグダラのマリヤから見たイエス様の復活について考えて見ます。イエス様の公生涯の初期段階において、初めて彼女の名前が登場します。

多くの映画では、彼女は遊女として描かれていますが、真偽は分かりません。彼女はガリラヤ湖の南西に位置したマグダラの出身でありました。イエス様の「ガリラヤ伝道」において救われた女性たちの一人であったようです。となりますと、少なくとも三年は、イエス様と行動を共にしていたと思われれます。

さて、よみがえられたイエス様が、一番最初に生きているお姿を現わされたのは、間違いなく「マグダラのマリヤ」です。マルコの福音書によりますと、[さて、週の初めの日の朝早くによみがえったイエスは、まずマグダラのマリヤにご自分を現わされた。イエスは、以前に、この女から七つの悪霊を追い出されたのであった。マリヤはイエスと一緒にいた人たちが嘆き悲しんで泣いているところに行き、そのことを知らせた。ところが、彼らは、イエスが生きておられ、お姿をよく見た、と聞いても、それを信じようとはしなかった。]と。

マグダラのマリヤは、ペテロとヨハネがゼベタイの家から飛び出して、墓に向かった後に、一人でもう一度墓に行きます。墓に到着しますと、すでにペテロとヨハネは去った後だったようです。この時、再び二人の御使いが彼女に現われます。彼女が、この御使いに会うのは二度目となります。なぜなら、彼女は恐れていないからです。この後、主イエス様が現われて下さいます。

ヨハネは、彼の福音書に、彼自身がマグダラのマリヤから直接聞いたことを思い起こして、詳細にわたって書き記したと思われれます。

イエス様は、一番最初に、マグダラのマリヤに現われました。次に使徒リーダーのペテロに、そしてヨハンナとヤコブの母マリヤたちに、その後、エマオの自宅に戻るクレオパ夫妻に、そして復活されたその日の夕方、彼らが全員集まって、カギがかけられた部屋の真ん中に、突然現われて下さるのです。

最後に、なぜイエス様は、「マグダラのマリヤ」に最初に現われて下さったのでしょうか。その理由は分かりません。それは主の御旨の中のことだからです。主が、そのように思われ、そのようになされたとしか言えないのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は11月17日です。通常通り、午前礼拝と午後礼拝を行ないます。また次回「聖書の学びと祈り会」は、11月13日(水)に行ないます。